

# 私 の 工 夫

## 宿泊学習の学びを 日常生活につなげるために

県立西備支援学校

指導教諭 西原 佳代



### 1 はじめに

本校は、岡山県の南西部に位置する知的障害部門と肢体不自由部門とを併設する支援学校である。

本校には「はたらく 人々に関わり・貢献・余暇・健康」という理念がある。これには、在籍している児童生徒が卒業して10年後28歳になったとき、こうあってほしいという私たち教職員の想いが込められている。「はたらく 人」とは、健康な人、多くの人や地域と関わって暮らす人、仕事や役割を通して社会に貢献する人、余暇を上手に利用できる人であり、本校では、その姿を念頭に必要な教育を進めている。

### 2 授業での取組

今回は、将来を含めた生活の中で必要になる力を身に付けていく学習の一つである宿泊学習について、知的障害部門中学部第1学年の生活単元学習での授業の取組を紹介する。

本校では、本年度より「宿泊学習（事前・事後指導を含む）」で育てたい力「一覧表」を活用し、連続性や系統性を持って宿泊学習を行うようにしている。これを基に1泊2日の宿泊学習で生徒に身に付けさせたい力を明確にして取り組んだ。そのことで、実態に応じた目標を設定でき、生徒にも、具体



食事のメニューを決める話し合い

的な目標を提示することができた。  
〔1〕主体的な取組を促す  
○生徒に分かる短い言葉での説明や写真・具体物の使用  
○付けたい力（めあて）の提示  
○自己決定や自己選択できる学習活動  
○少人数のグループで教科書やワークシートを用いた話し合い活動  
○これまでの経験や既習事項を活用した学習内容や教材の準備  
【成果】めあてを提示したことで学習内容の見通しを持って取り組むことができた。自己決定や自己



学習内容について掲示物を見て確認

選択する学習では、達成感や責任感を持つことができた。少人数でのグループ学習を通してリーダーシップを発揮できる生徒、友達の意見を聞く・自分の考えを伝える生徒の姿が見られた。  
〔2〕学習内容の定着を図る  
○学習した内容を個人で振り返り再確認するためのワークシート  
○家庭との連携（ワークシートを持ち帰り、家庭でも確認、実践）  
○学習した内容や学習の様子の写真を教室前廊下に掲示  
【成果】家庭と連携したことで、学校での学習内容を家庭生活での実践にも生かしてもらうことがで

## 数学の学習

## 宿泊学習の学習

### 【時計の学習】

- ・アナログ時計の読み方。
- ・〇時〇分から△時△分までの時間。

### 【お金の学習】

- ・買い物でおおよその金額を出す。
- ・ちようどの金額を出す。

- ・日程表の時刻と時計のイラストのマッチング。
- ・学校から目的地までの時間から学校を出発する時刻を考え、何時のバスに乗るとよいかをバス停に行つて確認。

- ・だいたいのお金金額を伝え、いくら必要になるか考え、お金を準備。
- ・様々な金額の中からバス代を準備。

きた。「家でワークシートを使い、もう一度確認した」「家でやったことがなかったが、これを機にやってみた」といった感想をもらった。掲示物を見て自分の役割分担を確認したり、学習の様子の写真を見て友達とやりとりしたりする生徒もおり、宿泊学習への意識が高まった。

### (3) 教科学習とのつながり

【成果】数学で学んだことを生かす場面を設定したことで、生徒に身に付いている力を確認でき、生

徒自身も、学習したことの何が生活場面につながっているのかを確認できた。

### 3 日常生活や次の学習へ

今回の宿泊学習では、清掃、洗濯、調理の三つの柱を重点目標に取り組んだ。今後、宿泊学習で身に付けた力をさらに定着させていくために清掃については、日常生活の清掃当番や総合的な学習の時間に行っている清掃活動と関連さ

せながら、清掃道具の扱い方や清掃の仕方に取り組む。洗濯については、家庭でのお手伝い（役割）につながるよう、日常生活の中で洗濯や洗濯物干し、靴洗いの学習に繰り返し取り組む。調理については、身に付いた力をより高めていくために、次の単元で家庭での料理の作り方を調べて、さらにおいしい料理作りを目指す学習を計画している。



バス停へ時刻表を確認に

事前に多くのことを学習したが、宿泊学習では、実際に学習した内容がどれだけ身に付いているかを確認できた。生徒の成果と課題を把握し、継続した学習ができるよう来年度の宿泊学習につなげていきたい。単元計画を検討する中で、生徒一人一人について「何を学ぶか」を担任間で共有し（「ティーム・ティーチングの連携」）、どのように学ぶかを生徒の実態から考えたことで、ねらいを明確にし、教材を考えることができた。そして、「何が身に付いたか」を評価して次につなげていくことができた。一方で、宿泊学習に関する単元だけでは、付きたい力の定着が難しい面がある。繰り返し取り組むことで定着できる生徒が多いことから、他の教科や単元間、さらには学年や学部間とのつながりが大切になってくる。今回の実践を通して感じた気づきを教員間で共有しながら、今後の授業改善につなげていきたい。

### 4 おわりに